

なりたの昔話

第7回

このコーナーでは、昔から語り伝えられてきた成田の昔話や伝説などを掲載しています。

【参考文献】コミュニティ成田No.29(平成元年10月発行…成田市)

マグロの検使

江戸時代の話です。ある村のお百姓が炭焼き仕事に行こうと山道を登っていると、気味の悪い首がこちらを見ているではありませんか。

「ギョ！」

お百姓は腰を抜かさんばかりにびつくり。

気持ち悪さを落ち着けて目を凝らして見てみると、大きな目玉が二つと赤く裂けた口が見え、なんともえたいが知れない化物です。今でいったら、宇宙人に遭遇したような驚きだったことでしょう。お百姓は村へと一目散に駆け出しました。村に着くと皆に、

「大変だ、変な首が落ちているぞ！」

と触れて回りました。村人たちは大勢で現場に赴き恐る恐る見ましたが、誰も気味悪がるばかり。それが何なのかさっぱり分かりません。村一番の物知りといわれている老人ですら、

「はて……？」

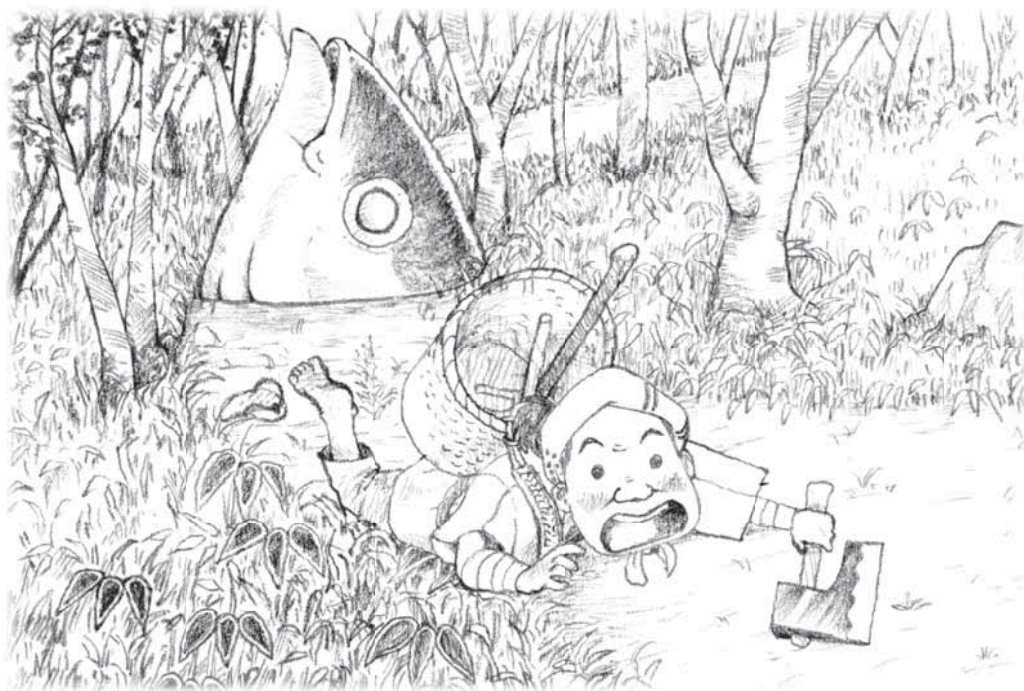
と首をひねるばかりです。

相談の結果、村人たちは使いの者を急ぎ佐倉の城下へ走らせました。藩の役人に正体不明の首が落ちていると報告し、実地検分に来てもらうことにしたのです。しばらくして検使役人がやってきました。村人たちが現場に案内し、その首を見せたところ、

「ワッハッハ……おまえたちが申ししていた首とはこのことか。これはマグロの頭じゃ」

山中にひそんでいる無宿人たちが、どこからか運んできたマグロを食べて頭だけを捨てていったのだらうということでした。

海岸から遠い村のことですから、人びとが食べる魚といえばフナかコイなどの川魚か、海の魚でもせいぜいイワシの干物ぐらいでした。ですから、マグロのように大きな魚を知らなくても無理はなかったのです。検使役人は、はるばる佐倉城下からやってきて全くの無駄骨になってしまいました。村人たちを叱るわけにもいかず苦笑するばかりでした。



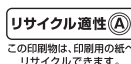
編集後記

今年も残すところあと半月です。本紙恒例の「広報なりたで振り返る主な出来事」。甘いものに目がないわたしにとって、成田の新たなご当地スイーツ「成田ソラあんばん」の発売は大ニュースでした。皆さんはもう召し上がりましたか。市内5店舗に加え、11月から期間限定で成田空港内での販売が開始。とことん素材にこだわったというその味を、あんばん好きの人もそうでない人も、ぜひ一度ご賞味あれ。

平成24年12月15日号 No.1233

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。